

「ラオスのこども」の仲間たち

まだまだ切れない私とラオス

秋元波さん(元スタッフ)

ラオスのこどものスタッフを離れて9年になる。この秋、ラオス事務所併設の図書館存続のためのクラウドファンディングサイトに応援メッセージを送った。さらに、なりふり構わず友人、知人に寄付を呼び掛けたところ、たくさんの方が賛同してくれゴール達成に貢献することができた。自分が直接携わっていると「寄付して!」とストレートに言うのは躊躇われるが、外にいると憚らずにできるのだから興味深い。その後、地元つくば市でラオスマツリが開催されることになり、ラオスのこどものブース出店に協力し、懐かしい仲間との再会に心弾んだ。



たまたま、こんな機会に恵まれたが、日常的には現在のラオスと私の関わりは薄い。が、濃い。私と夫の共通語はラオ語。夫はタイ南部出身で両方ともネイティブではないので、いつもラオ語を話しているつもりだが、久々にラオス人に会うと、ああ私たちがガラバゴス・ラオ語だったっけと思い出す。ラオ語とタイ語は語彙が異なるものもあれば、同じ語彙でイントネーションだけが異なるものもあり、ちゃんぽんで使っているのだ。

6歳になった子どもの名前は、ラオスやタイの命名にならない雨にちなんだ。ラオスのこどもの元スタッフのスックパンサーは、小1のクラスに自分と同名の子がいたことがきっかけで、自分で新しい名前を考え、幸せの(スック)雨(パンサー)に改めたと聞いた。

その後、霧雨さんや雨水さんに会い、暑いラオスでは雨にちなんだ名前が多いことを知った。いつか、わが家の雨つぶがラオスを訪れる日があつたら、両親のはラオ語ではなかった!と言うかもしれない。夫は娘にタイ語で話すので、私も切り替えようと何度か試みたが先に身に着けたはずのタイ語に切り替えることができず、ガラ・ラオ語が共通語として生き長らえている。私にとってラオ語はベタンコ靴で、タイ語はハイヒールを履く様なもの。頑張れば履けないことはないが、ホームのリラックス状態ではどうも「頑張る」が続かない。ラオ語も洗練された言語だ、と作家のダラーさん(ラ

表紙の写真

ラオス南部チャンパサック県チャンパサック郡にあるお寺のあと。夕暮れ時に訪れると、近所の子どもたちがお参りに来ていました。ラオスは仏教徒が多い国ですが、同時に「精霊(ピー)」も信仰されています。大きな木、山や森、川、家など様々なところに宿るとされているピー。そして、日本でいう「お化け」も同じくピーと呼ばれています。

特定非営利活動法人ラオスのこども

組織の理念「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるように、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくりまします。

ラオスのこども通信 84号

2022年12月発行 代表:チャンタソン・インタヴォン 編集人:森透
発行: Action with Lao Children / Deknoylao
(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども
〒143-0025 東京都大田区南馬込 6-29-12 ミキハイツ 303
TEL/FAX 03-3755-1603 e-mail: alctk@deknolao.net
http://deknolao.net
都営地下鉄浅草線西馬込南口下車徒歩7分
郵便振替 00140-6-462494



オス事務所アドバイザー)には叱られるかもしれないが、これが私のフィーリングなのだからしょうがない。幸い、たまに行くタイ寺には東北タイ出身者も多く、ベタンコ靴で通している。

私とラオスとのかかわり、今は4幕あたりか。1幕はシャンティ国際ボランティア会ラオス事務所のインターン、2幕はラオスのこども駐在員、3幕は少数民族の人々と学校のかかわりの調査研究、4幕が家庭内言語としてのつながり。最近、ラオスの風が生活に入ってくるのが重なり嬉しい。共通語のチューニングのためにも、いつか家族でラオスに暮らしてみたい。

2022年通常総会を開催

ラオスのこども通常総会を9月17日、ライフコミュニティ西馬込とオンラインをつないで実施しました。活動会員42名(書面表決、委任状提出を含む。うちオンライン参加者は12名)、活動協力者3名の合計45名が出席しました。2021年度の事業報告案及び決算報告案に関する事項が承認され、2022年度の事業計画書、予算案について報告されました。第2部は渡邊淳子駐在スタッフが「成長する図書館—スタッフの調整、学校の熱意」として、3年半にわたって実施した中等学校の図書館の応用研修の様子などを報告しました。

ラオスに昔から伝わるピーのおはなし『カンパーピーノイ』、不動の人気を誇る。



みんなでピーを描きました。



『ドデカあたまのおばけ』若手作家による創作絵本。現代感覚のピーです。

メコンのほとりピー

いつもそこにいるお化け、自然の中に宿り、人々の生活を守る精霊

今号の表紙の写真にあるように、ラオスでは精霊(ピー)が信仰されています。ラオスのスタッフたちが日本に来たときのこと。「ピーが来るから一人で寝るのはこわい」と言ってシングルからツインの部屋に変更しました。また、ある留学生は、帰国して家に着いて自分の部屋に入るとき、最初にしたのはピーに「ただいま」と言ったとのこと。

ラオスの人にとってピーは身近な存在(存在しているのでしょう)。失礼な行いをすると病気や災害やよくないことが起こるのです。体調を崩して病院へ行き、薬を飲んで、それでも治らなかつたら「ピーのせい?」と考える人も少なくないそうです。

ピーが登場するお話は子どもたちにとっても人気があって、当会でも出版しています。そんな中の一冊、『ドデカあたまのおばけ』は、書き損じハガキキャンペーンで集めたハガキと切手で出版する計画です。

ラオスのこども通信



発行:(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- ラオスの今、子どもたちの暮らし ▶P.1
- はじめる・つながる・つくりだす ▶P.2
- 「ラオスのこども」の仲間たち ▶P.4
- メコンのほとり「ピー」 ▶P.4

*写真の説明はp.4をご覧ください。

ラオスの今、子どもたちの暮らし

鉄道開通1周年を迎えて

日本でも報道されたラオスの首都ヴィエンチャンと中国雲南省の昆明、1,035キロを結ぶラオス中国鉄道は、2022年12月で開業して1年が経ちました。ラオスは急速に開発が進められ、同時にコロナ禍に見舞われ、今どのような様子なのでしょう。

ラオス中国鉄道は中国のゼロコロナ政策もあって、それぞれ国内区間限定で運行され、ラオスではヴィエンチャン・ポーテン1往復とヴィエンチャン・ルアンパバン1往復、1日に合計2往復だけです。今まで外国に行き来していたラオスの人たちは国内ツアーに切り替え、家族や友人と鉄道で北部のルアンパバンや今まであまり行けなかったその周辺を訪問するようになったとのこと。鉄道は飛行機よりも格段に安く、バスより移動時間が短いと人気で、駅の窓口は乗車券を入手しようとする人たちが長蛇の列になっているとか。タイとの国境は再開され、タイからの観光客も鉄道の旅を楽しんでいる様子です。



ルアンパバン駅ホーム。案内板はラオス語・中国語・英語で表記

この1年間でラオス国内の旅客の輸送は延べ850万人にもなりました。また貨物輸送は1,000万トンに上り、特に中国製品がラオス経由でASEAN諸国へ届けられているそうです。今後、鉄道がラオスと中国の国境を越えて運行されるようになれば、物だけでなく人の往来が増える予想されています。ラオス国立大学の中

国語センターでは、60人の定員に対して応募が600~700人と10倍以上で中国語熱が高まっています。

物価の高騰、生活はきびしくなって

こうした発展がみられる一方で、コロナ禍による経済の停滞と物価の高騰が進み、多くの人が厳しい生活を強いられています。例えば、お米は12キロ90,000キップ(約720円)から150,000キップ(1,200円)に、卵は1パック(30個)が30,000kip(約240円)から50,000kip(400円)に上がって、ラオス事務所のスタッフたちも悲鳴を上げています。



いまだ校舎の整備が進まない地域も少なくない

奨学生へのインタビュー、ガソリン高騰が通学を直撃

当会が実施している中等学校の奨学金を受給している生徒たちにインタビューしました。

どの生徒も家計を助けるために働いています。家業の手伝いはもちろん、野菜を栽培して売ったり、織物を織って販売したりしています。男子はガソリンスタンドや夜警のアルバイト、女子は結婚式場などのイベントのアルバイトなどを行っています。

ガソリンは12,500キップ(100円)くらいだったのが、20,000キップ(160円)に届くほどに高騰し、通学にバイクやバスを使用しなければならぬ子どもたちを直撃しました。ガソリンを入手できなかったりバス代が支払えないために学校を欠席しなければならない日があるとのこと。

「卒業後は技術専門学校で経理か裁縫を勉強したいと思っていたけれど、入学願書を買うお金がなく、今年は進学を諦めた」という話もありました。苦しい状況はまだおさまる気配はありません。しかし、子どもたちは力強く生きています。スタッフも相談役を務め、見守っています。



奨学生(左)とラオス事務所スタッフ、チャンシー

冬募金へのご協力をお願い 『リズムで学ぶラオス語』の出版資金を集めています

小学校で使われていたラオス語の教科書を再編集したラオス語学習本『リズムで学ぶラオス語』の再版を計画しています。子どもたちが楽しく学べるようにリズムカルな詩でラオス語を教える大人気の絵本です。自分で学習するために個人でも欲しいという人も多いのも特徴です。出版資金のご協力をお願いします。



日本から絵本281冊が ラオス事務所に届いた!

ラオス語絵本プロジェクトに多くの参加をいただいておりますが、昨年11月ごろからラオスへの船便が運休となり、たくさんの絵本を東京事務所でお預かりしたまま、ラオスへ送れない状況が続いています。

船便はまだ再開されていませんが、日本に研修に来ていたラオスの学生たちが、帰国するときに絵本を持ち運ぶことに協力してくれました。ようやく、281冊がラオス事務所に到着。これらの絵本は、ラオス事務所から各地の学校図書室に届け、子どもたちと出会います。



拡がる図書館活動のステップアップ

図書館がもっともっと活用されるように、図書館のサイン・展示、授業での図書活用を促す「図書館応用研修」を実施してきました。その成果をもとに、もっと多くの学校図書室で広めていこうと、2021年度冬募金と特定非営利活動法人地球の木の支援を受け、2022年10～11月、ヴィエンチャン都内の2校、ヴィエンチャン県内の3校で実施しました。



図書館展示研修、「化学」の元素の紹介では図書と一緒に実物展示も

今回実施したのはいずれも、当会がこれまでに図書館・図書室の開設支援をした学校ですが、参加した各教科の先生たちからは、ほとんど図書館を利用したことがないという声が多くあがりました。そこではじめに、ゲームを取り入れたオリエンテーションで図書館に慣れてもらい、それから、図書活用の授業計画を立てる実習をチームで行いました。

図書館担当の先生とボランティアの生徒が協働で取り組んだ図書館サイン・展示では、「展示をすることで、生徒たちがもっと図書に興味を持つようになると思う」(図書館担当教員)、「自分でも展示をやってみて、利用者を増やしたい」(ボランティア生徒)との声が上がりました。

うれしいことに、同じ郡の他の学校図書室の先生たちが参加してくれました。これらの学校には予算の関係で交通費や日当が支給できなかったのですが、「それでも受けて」と駆けつけてくれたのです。こうした学校の先生たちの熱意も手伝って、図書館を学校教育に有効活用する輪が、さらにどんどん広がっていくことを願っています。



「生物」節足動物の授業に向けて、活用する本を検討する先生方

蘇った原画の色彩『ぼくはどこへいくの』

ラオスで身近なバナナと近年問題になっているビニール袋の物語を通して、子どもたちにラオスの自然の豊かさと、自然と共に営む暮らしの大切さを伝える、当会出版の環境絵本『ぼくはどこへいくの』。絵は、ラオスで紙芝居・絵本の普及に携わってきたやべみつのりさんが手がけ、2004年に初版、2012年に再版され、多くの子どもたちに親しまれてきました。

その後、在庫切れになっていましたが、もっと多くのラオスの子どもたちに届けたいという声が集まり、クラウドファンディング(2022年2月17日～3月31日)と、特定非営利活動法人地球の木の支援を受け、新たに再版することができました。



新しく刷り上がった絵本『ぼくはどこへいくの』(左)と、その原画(右)

今回は、やべさんが描く世界観を忠実に再現することにチャレンジ。原画を日本でスキャンし、ラオスで編集・印刷しました。でき上がった絵本は、バナナちゃんとビニール袋くんが旅をするシーン、市場の賑わいや、村でのお祝い事、子どもたちの遊びなど、ラオスの暮らしの様々な光景が鮮やかに、イキイキとした色で蘇りました。

絵本として読むだけでなく、環境教育、ゲームなど、いろいろな使い方がされています。ラオス全国の学校図書室、当会の事務所図書室や事業活動はもちろん、様々なNGOが実施している読書推進プロジェクトで活用される予定です。子どもたちが、新しい絵本を手にとる姿が今から楽しみです。

※『ぼくはどこへいくの』など、当会絵本の購入はコチラから
↓
<https://laostoehon.thebase.in/>



ラオス事務所図書室で『ぼくはどこへいくの』を読む子どもたち



ALC図書館存続クラウドファンディング



目標金額 1,026,400円

支援人数 121人

終了

【ネクストゴール挑戦中!】ラオスで30年以上図書館活動をしてきたNPOラオスのこども(ALC) 聖地蔵の図書館が、財政難で存続の危機に、地域の子ども達が助け、運び、学ぶ、かけがえない場であり、プロジェクト活動官の場でもあるALC図書館。この場所をなんとか守り、活動を続けていきたい!

ネクストゴール設定額90万円を超えました!

財政難によるラオス事務所併設図書館閉鎖の危機に、「これまで作り上げてきた居場所をなんとか守り続けたい」との想いで始めたクラウドファンディング(2022年9月8日～11月8日)は、121人のみなさんから1,026,400円の支援をいただきました。支援、協力下さったすべての方々に、お礼申し上げます。

今回のクラウドファンディングを通じて、これまでラオスや当会とゆかりのあった方々と再び繋がる事ができたこと、そして新たな支援者の方々と出会う事ができたのは、とても大きな収穫でした。また応援メッセージやお声かけは、私たちが図書館をこの場で続けていくことの意味、意義について、あらためて真剣に考える機会になりました。



手書きのお礼状づくりやイベント開催を相談するラオス事務所スタッフ

ラオス事務所では、この図書館を維持発展させていくために、様々な取り組みを進めています。子どもたちが来なくなり、より気持ちよく利用できる居場所となるように、看板やフェンスの塗り替え、床の補修など修繕計画を立てています。

また、これまで生徒はたくさん来ていたものの学校とはあまり連携していなかったため、近隣のサイセター中等学校への訪問、出前ワークショップも計画中です。そして、コロナで減った来館者を呼び戻すため、スペシャルイベントを12月末に開催しようと準備を進めています。今後のALC図書館の活動を見守ってください。

※クラウドファンディング「子どもたちを育む場を守りたい!」ラオス事務所併設 図書館の存続にご支援を!は、コチラから! 今後の図書館活動も随時発信しますのでご覧ください
<https://camp-fire.jp/mypage/projects/620464>

